

6)診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位)【2017年度】

2017年度<2017年4月1日～2018年3月31日退院患者>

診療科名称	Kコード	Kコード名称	症例数	平均 術前日数	平均 術後日数	平均年齢	転院率
外科	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	130	0.18	1.28	65.35	0.00
	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(両側)	61	0.97	1.79	63.10	0.00
	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	29	6.59	10.72	70.90	0.03
	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	27	2.30	5.74	60.52	0.00
	K6335	ヘルニア手術(鼠径ヘルニア)	25	1.00	2.52	74.68	0.00

【解説】

ポリープ切除は当院で最も多い手術件数であり、昨年度より約50件増加しています。人間ドックによる早期発見により、軽微な状態での切除件数増加に繋がったのではないかと考えます。

成人のヘルニアは自然に治ることはできませんので治療は手術療法が原則となり、当院では腹腔鏡手術を積極的に行っています。

結腸悪性腫瘍の手術においては、腫瘍が特に大きい場合や穿孔がある場合などを除き、腹腔鏡補助下手術の適応としています。また、術後の絶食期間を短縮し、早期退院を目指すERAS(Enhanced Recovery After Surgery)プログラムを導入しています。

診療科名称	Kコード	Kコード名称	症例数	平均 術前日数	平均 術後日数	平均年齢	転院率
整形外科	K0461	骨折観血的手術(上腕)(大腿)	75	4.49	56.69	82.03	0.01
	K0462	骨折観血的手術(下腿)(前腕)	55	3.73	24.38	58.71	0.00
	K0811	人工骨頭挿入術(股)	41	8.10	62.83	84.20	0.05
	K0483	骨内異物(挿入物を含む。)除去術(下腿)(前腕)	29	1.45	5.14	52.38	0.00
	K0463	骨折観血的手術(鎖骨)(指)(手)(足)(膝蓋骨)	22	2.64	11.55	47.59	0.05

【解説】

手術の第1位と第3位は大腿骨頸部骨折等に対する手術です。

当院では急性期治療後に継続してリハビリテーションを実施するために、回復期リハビリテーション病棟へ転棟するが多く、リハビリテーションを長期に要するため、術後の在院日数が長くなっています。骨折は、手術だけで治癒できるものではなく、術後早期のリハビリテーション、退院後のリハビリテーションや通院を継続するようにして、早期社会復帰を目指し、受傷前に近い日常生活を送るようにサポートしています。

骨内異物除去術は、骨折や靭帯の手術で固定するために用いた金属製のネジやプレートを、治癒した後に取り去る手術です。部位によりますが、殆どの場合入院期間は2～3日の短期間です。

当院にはスポーツ専門外来があり、未来ある若者たちの治療も行なっていて、幅広い年代へ対応しています。

整形外科では超高齢化社会に向けて、2018年度医師を2名増員し、7名体制となりました。今後も地域に密着した幅広い症例への対応強化に努めてまいります。

診療科名称	Kコード	Kコード名称	症例数	平均 術前日数	平均 術後日数	平均年齢	転院率
内科	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	41	6.12	17.61	78.32	0.00
	K7211	内視鏡の大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル未満)	38	2.24	3.42	65.39	0.03
	K610-3	内シャント設置術	-	-	-	-	-
	K7212	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術(長径2センチメートル以上)	-	-	-	-	-
	K654	内視鏡的消化管止血術	-	-	-	-	-

【解説】

消化器疾患の手術が主で、最も多い手術は内視鏡的胆道ステント留置術です。昨年度と比較して、約2倍増加しています。総胆管結石、胆管炎等による発熱や腹痛、黄疸が主症状の急性疾患であり緊急の処置が必要となります。狭くなっている胆道にチューブやステントを挿入して胆汁の流れを良くする手術です。

ポリープ切除術は、ポリープの大きさによって分類されているため、2位、4位に分かれています。

内視鏡室の増設や、消化器内科医師の増員に伴い、徐々に症例数を伸ばしています。

診療科名称	Kコード	Kコード名称	症例数	平均 術前日数	平均 術後日数	平均年齢	転院率
脳神経外科	K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	15	7.20	29.93	75.67	0.00
	K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	-	-	-	-	-
	K145	穿頭脳室ドレナージ術	-	-	-	-	-

【解説】

慢性硬膜下血腫とは、軽微な頭部外傷による微量の出血などが原因で、被膜を伴う血腫が硬膜下に形成され、徐々に拡大してきます。通常は3週間～数ヶ月かけて血腫がつくられるため、受傷直後は無症状や頭痛程度の症状しかなく気付かない場合もあります。

また、アルコール多飲者や高齢者に多く発症すると言われています。

慢性硬膜下血腫の治療法として外科的治療が推奨されており、慢性硬膜下血腫洗浄・除去術という手術をします。この手術では、局所麻酔で頭蓋骨に小さい孔を開ける穿頭術を行い、血腫を吸いだし、生理食塩水で洗浄します。

診療科名称	Kコード	Kコード名称	症例数	平均 術前日数	平均 術後日数	平均年齢	転院率
眼科	K28210	水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)	93	0.03	1.02	74.69	0.00

【解説】

当院で行っている眼科の手術は、高齢者の方に多い白内障の治療のため、水晶体の代わりに【眼内レンズ】と呼ばれる人工のレンズを挿入する「水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合)(その他のもの)」です。

昨年度より常勤医師が増えたことから、白内障手術の受入れが拡大し、昨年度より症例数が30件増加しました。

日帰りで行う医療機関も増えてきていますが、当院では安全面を最優先し、1泊2日の入院としており、入院当日に手術を受け、翌日に診察を受けてから退院しています。